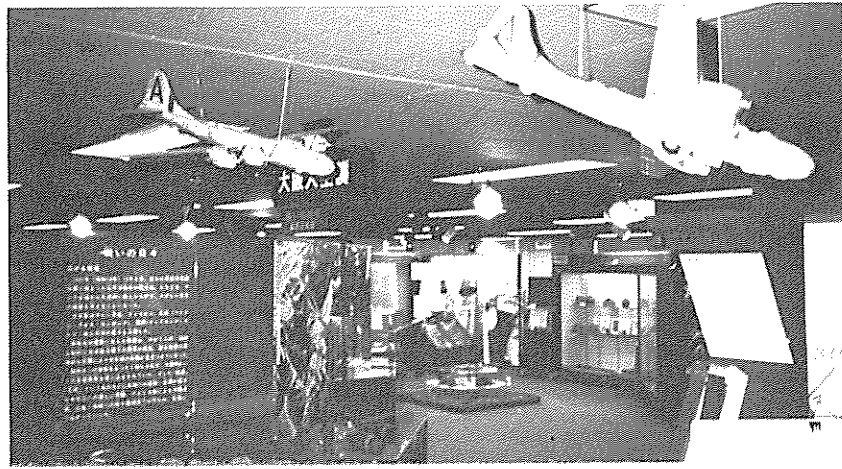


見学・資料しらができます

# 戦災・戦争の歴史をたずねて

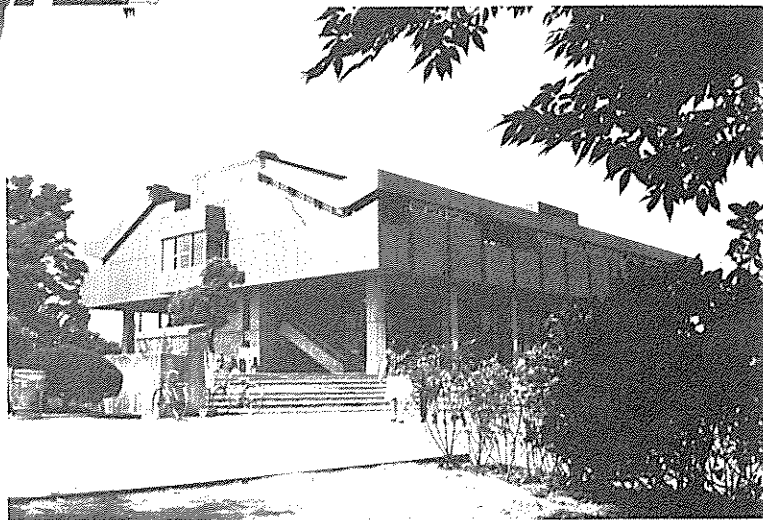
大阪府平和祈念戦争資料室を除いて、他の施設は、平和関係の資料のみを取り扱っているわけではありませんが、関連する資料しらができる施設として紹介します。



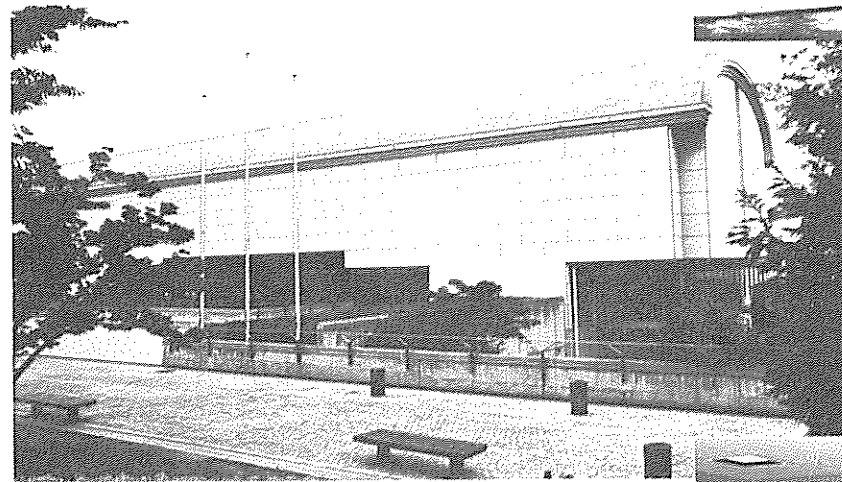
**大阪府平和祈念戦争資料室** 大阪大空襲、ヒロシマ、沖縄の惨状などを生々しく伝える武器・弾薬や、若いのを散らしていった青年たちの遺言や戦時中の生活を示す実物模型が、多くの写真・パネルとともに、戦争の悲惨さとすさまじさを訴えかけている。

(〒542 大阪市南区谷町7丁目4-15 大阪府社会福祉会館内 地下鉄谷六駅南へ200m 電話06-762-5681 水曜・年末年始は休館)

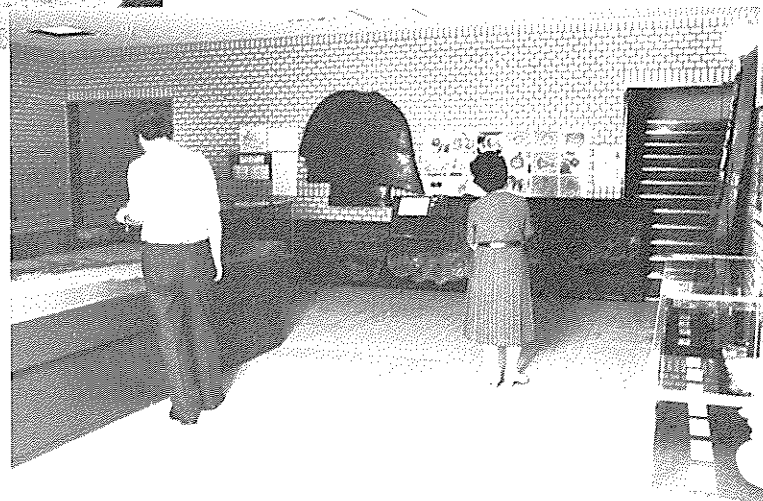
**堺市立中央図書館** 戦時下の生活・戦災をくわしく記した『堺市史続編』『堺市制施行七十年誌』『大阪大空襲に関するアメリカ軍資料』などのほか、与謝野品子関係の刊行本、市内の団体やグループなどから寄贈いただいた戦争・戦災体験集などの刊行物資料を蔵書している。(〒590 堺市大仙中町18-1 阪和線百舌鳥駅下車西へ500m またはバス大仙町下車すぐ 電話44-3811、月曜日・祝日・月末・年末年始・図書整理期間中は休館)



**堺市博物館** 戦災・戦争資料は少ないが、中世に平和で自治を詠歌した自由都市の姿を知ることができるほか、7月10日の大空襲の惨状を描いた岸谷勢蔵氏の画や疎開前の宿院通りのスケッチ画などが収蔵されている。(〒590 堺市百舌鳥夕雲町2丁目 阪和線百舌鳥駅下車南西 400m または、バス博物館前下車すぐ 電話45-6201 月曜および祝日の翌日・年末年始休館)



**堺市立埋蔵文化財センター** 市内の埋蔵文化財の調査と保存等を行っているが、遺物整理や復元などの様子を見学できる。旧市街地の環濠都市遺跡からの出土品の保存や調査報告書もここから発行されている。(〒593 堺市菱木3142 バス福泉中央小前下車徒歩3分 電話73-6101 日・祝日・年末年始は休館)



## 地中にたび重なる戦火・大火の跡

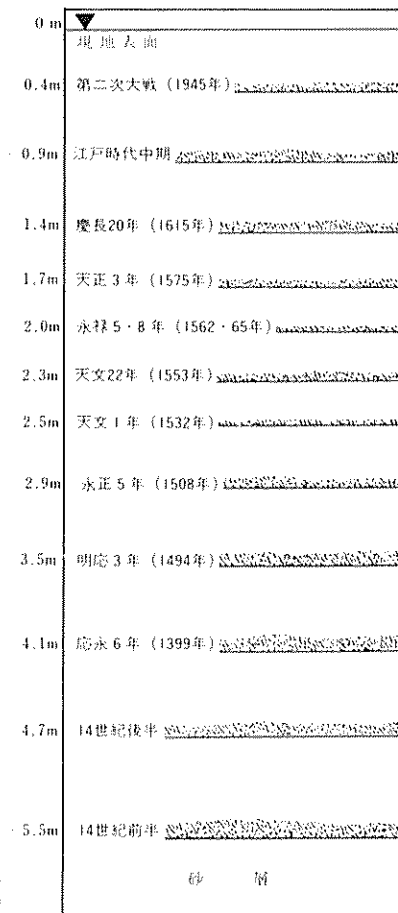
### 環濠都市遺跡の現地説明会

「黄金の日目」をしのばせる茶人邸宅の遺構が発掘された甲斐町西での現地説明会(61年1月25日)。発掘現場には、たびたびの大火のほか応永の乱、大坂夏の陣、第二次世界大戦などの焼土層がシマ模様となってくっきり残っており、その都度、たくましく復興してきた堺の人々の努力がうかがえる。

### 堺の戦火・大火の年表

年(西暦)	内容	史料
昭和20 1945	5次におたる空襲により約2万戸焼失	第2次世界大戦
明治元 1868	市街地北部2町四方焼失	『堺市史(御願拜風説話日鳥羽伏見戦争の全史のうらさ)』
延宝8 1680	市街東部大火 480軒焼失	『堺市史(堺手鑑)』
慶長20 1615	大坂の陣の余波で二万戸焼失	『駿府記 イエズ会の日本年報』
天正3 1575	大火事	黄梅院文書
永禄8 1565	千戸焼失	フロイス『日本史』
永禄5 1562	五百軒焼失	蔵助往年記
天文22 1553	前回の残りを焼失(?)	賢忍房良尊大般若経奥書
天文22 1553	三分の二ほど	賢忍房良尊大般若経奥書 黄梅院文書
天文1 1532	北庄全域、南庄三分の一、四千戸焼失	二水記 蔵助往年記
永正5 1508	南庄千余焼失	実隆公記
明応3 1494	南庄全域(?)焼失	大乗院寺社雜事記 後慈眼院殿御記
文明18 1486	北庄で千戸焼失	熊軒日録
応永6 1399	応永の乱により一万戸焼失	応永記

### 焼土層模式図 (甲斐町西1丁付近)



最近、市教育委員会による旧市域の中世を中心とした遺跡発掘の相次ぐ成果によると、地表面下約5メートルにわたって、焼土層と盛土・整地が幾重にも重なって、中世以来の戦火や大火による跡がみごとに検出されている。文献資料によっても、たび重なる戦火や大火によって、堺の町が灰燼に帰したことが記録されている。しかし、その都度不死鳥のように、自らの手で町を再建してきた。失火による大火は別として、たびたびの戦火によって自ら築いた町と高といのちを失う悲劇をくりかえすまいという決意が町づくりに生かされてきたことが中世ヨーロッパ宣教師にも伝わった。さらに明治期には与謝野品子の歌にも象徴されるように、堺の人びとの間に平和への熱望が脈々と流れてきたといえる。